



いのち

いつでも どこでも だれにでも
笑顔で挨拶 自分から

安中大好き

生命を大切に、進んで学ぶ、素直でたくましい子どもの育成
～ すなおさいっぱい かしこさいっぱい たくましさいっぱい ～

6・3 いのりの日集会

- ①五小の宝物「おこりんぼの山」の紙芝居
- ②4年生代表児童4名「いのりの日に寄せる想い」発表
- ③永石一成氏による講話
- ④黙祷および歌「20年前の手紙」

<ねらい>

- 平成3年6月3日、8日の火砕流による災害の体験を継承し、防災に対する意識を高める。
- 「生命(いのち)・きずな・感謝の心」を大切に育てる。
- 島原市民の一員として、雲仙普賢岳の災害学習をもとに、不撓不屈の精神を養う。
- 「いのりの日」にちなんで半旗を掲げ、黙祷を捧げ、災害で亡くなった方々の冥福を祈る。

火山の恵み 2組 松藤 陽愛

私は、噴火災害の学習で、火山の恐ろしさと被害の大きさについて学びました。でも、いろいろと調べていく中で沢山の恵みがあることも知りました。その1つが地下水と湧水です。火山の表面は噴火で吹き出した岩石や火山灰に覆われているので、雨が降るとスポンジのようにしみこんでいきます。そして、何百年もかかって地層を通りながらかい水になって地下水になります。その地下水が地表に湧き出したのが湧水です。火山の周りではおいしい水に恵まれ、昔から人々に使われてきました。

他にも温泉や美しい景色、地熱エネルギーなど、たくさんの恵みを見付けることができます。また、火山のおかげで農業に適した土も作られるということでした。火山灰のおかげで野菜や果物がおいしくできる土になるというのは、本当にすごいと思いました。

最近では、火山の熱を利用して電気をつくる地熱発電が目立っているそうです。自然のエネルギーとしてこれからどんどん広がってほしいと思います。

私は、噴火の恐ろしさを知り、備えることも大切だと思います。それと同時に火山の恵みにも目を向け、感謝の気持ちをもって生活することも大事だと思いました。

伝えたいこと 1組 影山 季子

私は、今まで雲仙普賢岳について学習して、火砕流で44人の人が亡くなったことや、大野木場小学校が熱風で焼けこげたことを知りました。

そこで私は伝えたいことが2つあります。1つ目は、当時の小学生のことです。当時は災害が起こって怖かったらうと思います。噴火が始まって5年間に9400回もの火砕流が起きたそうです。家に帰れなくて体育館に避難したり五小は三小の仮設校舎で勉強したりと、自由な生活ができなかったそうです。2つ目は、おばあちゃんから聞いたことです。噴火の時、おばあちゃんは温泉病院(今の島原病院)で働いていました。大火砕流が起きて、やけどをした人が17人運ばれてきたので、家に帰れなかったそうです。夜中の12時くらいに、手術室の服を着たまま、歩いて家に帰ったと言っていました。ケガをした人達を助けようと必死にがんばっていたんだなあと思いました。そんな被害があったけど、山は怖いだけではないことも学びました。湧き水や温泉などの恵みがあるのも、火山のおかげです。おばあちゃんは、当時大変な思いをしたけど、また火山の恵みがいっぱいある島原に戻っていて、すごいなあと思います。これから私は、噴火災害の恐ろしさを伝えるとともに、この自然や火山の恵みが沢山ある島原を守っていきたくです。

災害学習を生かして 2組 草野 菜来

私は、噴火災害の学習を通して、3つのことが心に残っています。

まず1つ目は大野木場小学校を見学したことです。教室の中は机などが散らばっていました。窓ガラスが割れてしまっていて噴火がとても怖いものだと感じました。そして、また噴火が起きるのではないかと不安になってことを覚えています。

2つ目は、土石流などの被害について調べたことです。インターネットで調べてみると土石流のために沢山の家々がつぶされている写真がありました。火山の力はとても大きいので、無くしてしまうことはできません。しかし、被害を小さくするための方法を学び、備えることが大切だと思います。

3つ目は、災害の時に、全国から届いた手紙のことです。その手紙には、被害を受けた人々を心配する言葉、応援する言葉、励ます言葉がありました。受け取った人は沢山勇気もらったと思います。これから他の場所で災害があり、困っている人がいたら、私が手紙で励まし言葉を送りたいと思います。

災害は、もう、起こって欲しくありません。でも、起こってしまった時のために、学習したことを生かして、しっかりと準備をしていきたいと思ます。



Enjoy (楽しむ)

→ 面白いと感じることも、その中に楽しみを見つけ、やりぬく力を育てよう。

Think (考える)

→ これていのかを常に考えて行動する力を育てよう。

Enjoy

大切にしたい
3つの力

Think

Challenge (挑戦する)

→ もう少しがんばればできそうな
めあて(目標)を決め、努力す
る力を身につけよう。

Challenge

令和4年度

島原市立第五小学校

わすれていけないこと 1組 西尾 凜々夏

私は3年生の時普賢岳の学習をしてきました。当時のことをお父さんに聞きました。最初は、山から煙が出ているだけだと思っていたそうです。でも6月3日に火砕流が起きて43人の命がなくなりました。それまではみんな普通の生活でしたが、それからは多くの人が体育館に避難をし、窮屈に過ごしていたそうです。お父さんは知り合いのおばさんの家に避難したそうです。当時ペットを飼っていて、そのペットを他の人に預かってもらっていたそうです。長い間会えなくて、迎えに行ったときは、もう死んでいたそうです。噴火は人や動物の命を取るおそろしいものだと思います。

4年生になって、私は、火山の恵みについて学習しました。噴火はおそろしいけど、火山には嬉しいこともあります。それは温泉です。あの温かいお湯は、山からの贈り物です。

私は自然豊かな安中地区に住めることが嬉しいです。噴火のあと、地域のみなさんが勇気を出して安中を守り、ここまで自然を取り戻したのはとても素晴らしいことです。がんばってきた人々への感謝の気持ちを忘れません。これからは、私たちが受け取ったバトンを受け継いで、普賢岳のことを世界中の人々に伝えていきたいです。